

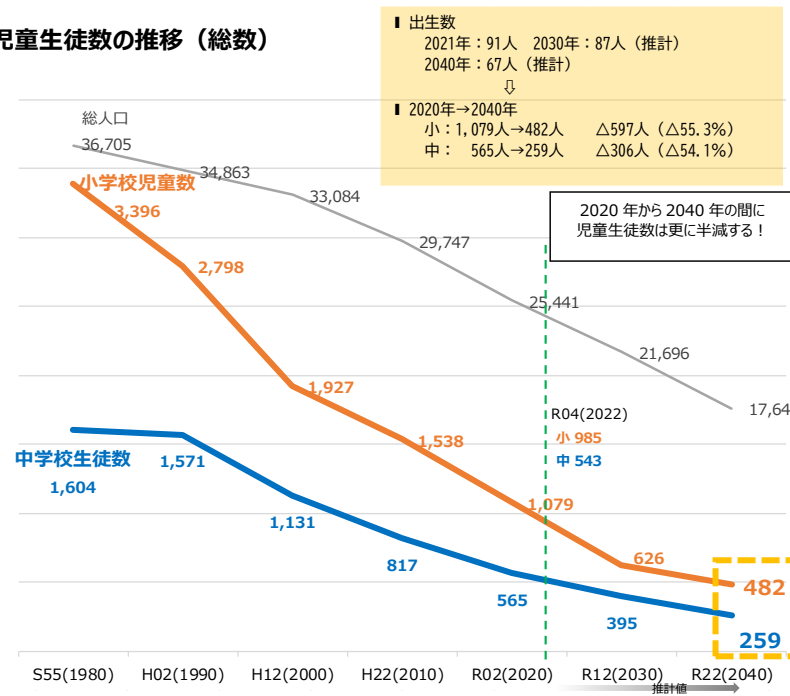
加茂市立小中学校における適正規模・適正配置の在り方 答申 【概要】

2022年11月10日 加茂市立小中学校適正規模等検討委員会

1 加茂市の小中学校をめぐる現状と課題

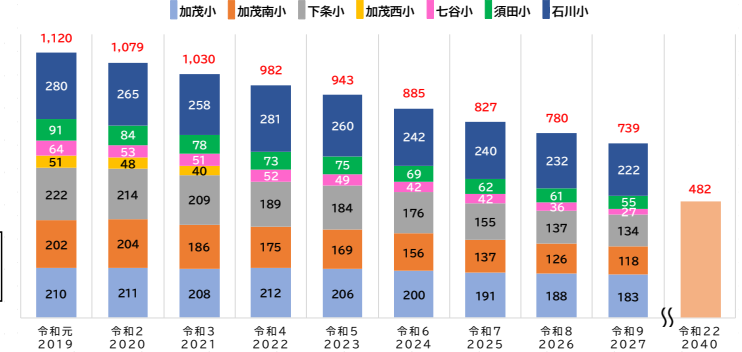
- 少子化に伴う児童生徒数の減少
(令和2(2020)年→令和22(2040)年)
□ 小学生：1,079人 → 482人 **△55.3%**
□ 中学生：565人 → 259人 **△54.1%**
- 学級数の減少
□ 既にクラス替えが無い小中学校が多く、今後、更に学級数が減少する。
- 複式学級の発生
□ 七谷小：計算上、既に複式学級が発生しており、令和9(2027)年度には全学年が複式学級の対象。
□ 須田小：令和10(2028)年度以降、複式学級が発生。
□ 七谷中：令和14(2032)年度以降、複式学級が発生。
□ 須田中：令和16(2034)年度以降、複式学級が発生。
- 配当教職員の減少
□ 中学校：全教科免許所有教員の配置ができない学校があり、今後も教職員の負担が大きい。

児童生徒数の推移（総数）

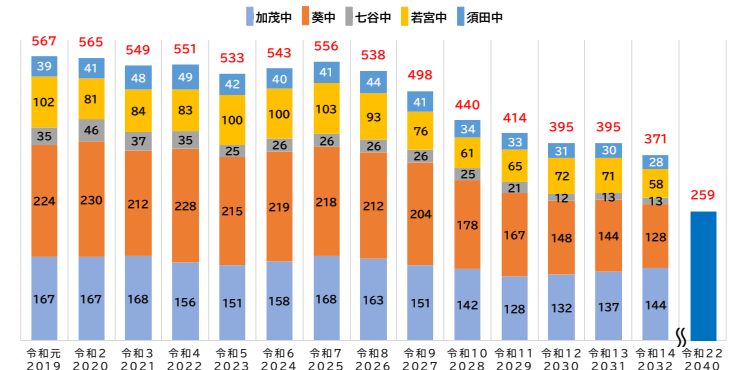


■ 出生数
2021年：91人 2030年：87人（推計）
2040年：67人（推計）
↓
■ 2020年→2040年
小：1,079人→482人 △597人（△55.3%）
中：565人→259人 △306人（△54.1%）

小学校別 児童数の推移



中学校別 生徒数の推移



- 部活動数の減少
□ 生徒が選択できる種類が少ない。
□ チーム編成が困難となりやすい。
□ 指導できる専門性のある教職員が減少している。
- 施設の老朽化
□ 築40年以上の建物が全体の61%、築50年以上の建物は26%であり、経年劣化が進んでいる。
□ 全体育館の耐震補強が完了、校舎の耐震補強工事を進めているもの、耐震化率69.7%（R4.11現在）は全国最低レベル。

学校規模の分類と試算

学校規模の分類	過小規模校	小規模校	標準規模校	大規模校	過大規模校
学級数	小 1~5 中 1~2	小 6~11 中 3~11	12~18	19~30	31~
〈参考〉令和3年度	西小 七谷小	南小 須田小 加茂小 下条小 七谷中 若宮中 須田中 加茂中 栗中	石川小		
〈参考〉令和9年度試算	七谷小 (R10~須田小)	南小 須田小 加茂小 下条小 石川小			
		七谷中 若宮中 須田中 加茂中 栗中			

※「過小規模校」欄の（）書きの須田小、七谷中、須田中の記載は、学区別出生数により別に試算したものを。

2 加茂市の目指す教育 ~加茂市学校教育の重点（抜粋）~

自ら考え 心豊かで たくましく生きる
ふるさと加茂を愛する子ども

目指す子どもの姿に迫る四つの柱

- ▶ 確かな学力 … 知識・技能 思考力・判断力・表現力等 学びに向かう力・人間性等
- ▶ 豊かな心 … 思いやり 生命尊重 感受性 自己理解 向上心
- ▶ 健やかな身体… 健康・体力維持 粘り強さ 挑戦する態度
- ▶ ふるさと加茂を愛する人材の育成 … 郷土愛 将来の夢 自分の役割



3 加茂市における望ましい教育環境に関する基本的な考え方

■ 小中学校の適正規模・適正配置

- 複数学級の確保
 - ▶ 多様な価値観に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨する環境
 - ▶ コミュニケーション能力や環境の変化に柔軟に対応する能力の向上
- 集団での教育活動等の充実
 - ▶ 集団や社会の一員としての役割を自覚
 - ▶ 望ましい人間関係を築き自己を生かす能力の向上
 - ▶ 集団として意見をまとめていく能力の向上
- 教員の人数の確保と質の向上
 - ▶ 経験年数、専門性等バランスがとれた教員配置及び指導体制の構築
 - ▶ 様々な課題に対する組織的な対応
 - ▶ 子どもたちの良さを多面的に評価
 - ▶ 部活動指導者の確保



● 望ましい学校規模

小学校 12～18 学級（各学年 2～3 学級）

中学校 9～18 学級（各学年 3～6 学級）

■ 小学校

- ▶ 全学年でクラス替えが可能

■ 中学校

- ▶ 全学年でクラス替えが可能
- ▶ 全教科に免許所有の教員（主要5教科（国語・数学・理科・社会・外国語）に複数の教員）を配置
- ▶ 充実した集団教育活動等の運営が可能

● 小中学校の適正配置

〔原則〕

通学距離（片道）：小学校 概ね 4 km 以内

中学校 概ね 6 km 以内

通学時間（片道）：小・中学校とも概ね 1 時間以内

- ▶ 国の基準を踏まえつつ、地理的状況や冬期の気象状況等を考慮し、子どもたちの負担を軽減
- ▶ スクールバスの活用



4 加茂市における望ましい教育環境の実現に向けた方策

■ 適正規模を実現するための検討

- 通学区域の見直し
 - ▶ 児童生徒数が減少している状況では有効性が問われる。
 - ▶ 地域コミュニティが分断する可能性がある。
- 教育課程特例校等の導入
 - ▶ 学校が特性を持つことは適正化の手法となるが「持続可能性」が課題となる。
- 学校の統合
 - ▶ 児童生徒数が減少している状況では学校を統合して集約することが適正化を図る手法となる。
 - ▶ 地域の実情に配慮する必要がある。

■ 適正規模・適正配置の進め方

1 小規模中学校の課題を解消

- ▶ クラス替えを可能
- ▶ 全教科に免許所有の教員（主要5教科（国語・数学・理科・社会・外国語）に複数の教員）を配置

2 小学校における複式学級の課題解消と小規模小学校の課題解消

■ 適正規模・適正配置を実現するに当たり考慮すること

- 地域との協働
 - ▶ 地域と一体となった学校教育の充実、地域から見える学校づくり
 - ▶ 地域の実情に配慮・地域の合意
- 子どもの教育環境・通学の安全
 - ▶ 校舎・給食調理場の老朽化を改善（新築・改築・大規模改修）
 - ▶ 地域との連携、スクールバスの運行、公共交通機関との連携



5 加茂市における望ましい教育環境の実現を進めるに当たって【付帯意見】

■ 学びの環境整備

- 積極的な ICT の活用・インクルーシブ教育に対応した仕組みづくり
- 適正規模となっても小規模校の良さを生かす体制づくり

■ 地域との連携・ふるさとを愛する教育活動の展開

- コミュニティ・スクールの導入
- 加茂市を教材とした「ふるさと愛」を育む教育課程の編成



■ 部活動の在り方

- 複数校による合同活動・外部指導者の導入・総合型地域スポーツクラブへの移行

■ 校舎等の新築・改築・大規模改修

- 他施設との複合化による子育ての拠点・ICT教育に対応 → 通いたい通わせたい学校
- 食物アレルギーに対応した給食調理場

■ 防災の拠点

- 平時から災害避難所としての備え・大規模防災センターの役割を担う新校舎

■ 統合後の学校施設の活用

- 地域との協議による有効な活用方法